

3. 将来像と基本方針

(1) 大山街道の将来像

地域の大山街道に関する取り組みの基本計画である高津大山街道活性化プランと連動し、街道を軸とした地域コミュニティの活性化や賑わいある街道の形成など、魅力ある空間創造に取り組むため、マスタープランの基本目標として大山街道の将来像を定める。

大山街道の将来像（マスタープランの基本目標）

暮らして安心 訪ねて楽しい 大山街道

住民が地域に誇りと愛着を持ち、安心して暮らせるまち

多くの来街者が訪れ、憩い、学び、楽しめるまち

住民と来街者の交流で「心の活性化」と「経済の活性化」が実現するまち

(2) 基本方針

大山街道の将来像を実現するため、5つの基本方針を定める。

基本方針1 誰もが安心・安全に歩ける道づくり

□安全運転を誘導する道路環境をつくる

大山街道は通過交通が多く、一部バス通りでもある一方、地域住民にとっては、重要な生活動線である。しかし、幅員が狭く、歩車分離ができないため、歩行者は路側帯を事故の危険を感じながら通行しなければならない状況である。

そのため、舗装の変更による歩行空間や交差点を強調するなど、安全運転を誘導する道路環境の整備が求められている。

□壁面後退のルール化の支援

地元住民が自主的に取り組んできた壁面後退のルール化について、都市景観形成地区制度を活用した支援を行うとともに、後退部分の整備費の助成制度を検討する。



基本方針 2 大山街道らしい景観をつくる

□大山街道らしさを大切にした景観形成を進める

大山街道とその周辺には、歴史や古くからの商店街としての趣き、緑豊かな寺社や緑地などにより、特徴的な界わいがつくられている。

これらの大山街道らしさを大切にし、景観形成を進める。

□安全で美しい景観を誘導する

近年、大山街道周辺は、マンション建設等により建物の更新が進んでいる。

大山街道らしい安全で美しい景観を誘導するため、安全及び景観に関するルールの方策及び運用の支援、デザインコードの推奨、助成制度の創設などの取り組みが必要である。

□公共公益施設の景観づくりを進める

道路や公園等の公共公益施設の整備にあたっては、歴史的街道に適し、大山街道の景観形成に寄与するデザインとすることが求められている。

基本方針 3 歴史的な建造物等の地域資源を活かし、

人が集える賑わいの場をつくる

□歴史的・文化的資源の再発見とその評価、保全と活用を進める

大山街道やその周辺には、歴史的建造物、社寺、文学碑等の歴史的・文化的資源や、二ヶ領用水、円筒分水、かすみ堤等の土木遺産、トロリーバスなどの近代化遺産など、多くの地域資源が存在する。それらを地域共通の財産として、人々の記憶を育む場やコミュニティの交流の場、そして賑わいの空間としていくために、その再発見と評価、保全と活用に向けた取り組みを進めていくことが求められている。

□歴史的建造物や空き店舗、公共公益施設等を活用した賑わいの場をつくる

大山街道及びその周辺には、マンション化等に伴い、若年世帯を中心とした新たな住民が増えているが、これらの世帯が地域コミュニティに関わる機会は少ない。そこで、地域活性化のため、新たな住民と地域コミュニティの交流の場づくりが求められている。

そこで、大山街道やその周辺の歴史的建造物や空き店舗、公共公益施設等を活用し、

人が集える賑わいの場を連続的に設けていくことが必要である。

賑わいの場づくりにあたっては、多様な地域住民が訪れやすいよう昼の顔、夜の顔を併せ持つ多様で魅力的な街の表情をつくることが求められる。特に、歴史的建造物については、建造物のもつ歴史的魅力を活かした活用を行うため、建造物にまつわる歴史や思い出の掘り起こしを大切にすることが求められている。また、公共公益施設については、地域のニーズに合わせた多面的な利用を実現するため、関係局と横断的な連携を進める必要がある。

□地域住民中心の場の運営体制をつくる

歴史的建造物や空き店舗、公共公益施設を活用した賑わいの場の運営にあたっては、人材、場の管理、資金等が必要となる。また、活性方策を検討するために、蔵や空き店舗等のマッチングや運営方法等について調査・研究する必要がある。これらについては、持続的な場の運営へとつなげていくために、行政主導ではなく、地域住民が主体となった運営体制の構築が必要である。また、行政は、特に初動期において、必要な支援を行うことが求められる。

基本方針4 街道や周辺の資源を結び、回遊性のある魅力的なまちにする

□来街者が回遊できる情報発信を行う

大山街道やその周辺には、歴史的建造物、社寺、旧道等の歴史的な資源や二ヶ領用水、円筒分水、かすみ堤、旧平瀬川等の水に関わる資源が存在し、商店街には魅力ある個性的な店舗などが増えている。しかしながら、これら大山街道及び周辺の魅力的な資源は点在しているため、来街者が資源を巡って回遊できるよう、多様な情報発信を進める必要がある。

□大山街道を補う生活動線を確保する

地域住民にとって大山街道は、生活動線として重要な道であるが、交通量が多く安全に通行できないため、大山街道を補う生活動線の確保が求められている。

歴史ある地域のため、内部市街地には幅員が狭く湾曲した街路が多いが、これらの街路を大山街道と共に地域にとっての生活動線とする必要がある。

基本方針5 コミュニティの新たな担い手を育てる

□新たな地域コミュニティの担い手を育てる

持続的な地域コミュニティの維持・発展のためには、新たな担い手の参画が不可欠である。

大山街道及びその周辺はマンション化等に伴い、新たな住民が増えているが、これらの住民が今後、新たな担い手として活躍することが求められる。特に近隣の学校（PTA）等との連携による子育て世代の若い人たちの参加が望まれる。

担い手を育てるにあたっては、参加しやすい場づくりや継続的な参加につながる受け入れ体制を整えることが必要である。

□大山街道に関わる多様な組織が連携する

持続的な地域コミュニティの維持・発展のため、大山街道活性化推進協議会を中心とし、大山街道に関わる町内会・自治会、商店街、学校、市民活動団体、企業等の多様な主体が連携できる体制づくりを進める必要がある。